

校友会報

111

目次

ご挨拶

丹羽 宏之……………1

第111号発刊に寄せて

高山 英華……………1

北郷 薫……………2

黒谷 義雄……………2

両国校舎紹介

山本 清……………3

創立90周年記念行事

小高 鎮夫……………5

八木平八郎……………6

学園近況報告……………7

学校法人・大学

専門学校・高等学校

支部だより……………11

随筆

舛井 寛一……………13

学園創立百周年記念事業

募金状況について……………15

部会報告……………16

総務部・財務部・企画部

90周年記念式典

功労表彰者……………17

事務局だより……………18

総会開催のお知らせ……………20

平成元年度事業報告書……………20

収支計算書……………21

貸借対照表……………21

財産目録……………21

平成2年度事業計画(案)……………22

収支予算書(案)……………22

校友会の使命

会長 丹羽 宏之

新大学棟が陽春の日差しに鮮やかに映える季節となりました。

会員の皆様には、益々、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

超高層ビル群で占められる西新宿地域では、昨年竣工した29階建の新大学棟も少々その威容が目立ち難い感がありますが、単科系大学はもちろんのこと、総合大学でも他に類例を見ない画期的な建造物であることは疑う余地もありません。

昨年は、校友会創立90周年式典と懇親会を盛大に開催し、多数の会員の皆様がこの新大学棟において旧交、親交を暖めることができましたが未だ見学されていない会員にも、是非とも機会を作って生まれ変わった新大学棟を見学に来て戴きたいと思ひます。

ところで、母校の発展には、幾つかの条件がありますが、私は、大学学園自体の発展はもちろんですが、校友の母校愛、すなわち校友の学園に対する物心両面の協力こそ最重要条件であると信じております。

母校の発展がなければ、校友の環は拡がりません。当然のこととして校友会の発展はあり得ません。

新大学棟が完成し、新しい21世紀へ向けて飛翔した大学学園への積極的な協力こそ、校友の急務であり、校友一人一人が母校愛に目覚め、少なくとも判明している会員の4万5千人という多くの校友各位の新たなる結束の下に協力的な校友パワーを発揮すべき時機が来たものと思ひます。

より大きな母校愛を育み学園の発展に協力することこそ、わが校友会の課せられた使命であると思ひます。

なお、本年は10月20日校友会の全国大会が静岡で開催されます。

校友の意気を高揚するための絶好のチャンスであることを認識し、多数の会員の皆様の積極的なご参加を期待致します。

最後に学園創立100周年記念募金に対して校友会としても積極的にバックアップをしており会員の皆様に対して多額の寄付をお願いしておりますが、目標額には未だ到達していません。

どうぞ、些少でも結構ですので、望ましくは会員全員のご協力をお願い申し上げます。

工学院学園の将来

理事長 高山 英華

校友会報110号が平成元年4月に発行されてから早1ケ年が経ってしまった。

この間、新宿の都心型大学の超高層の大学棟も無事完成して大学と専門学校の授業も開始されている。

しかし、この新宿の工事は、第一期が終ったばかりで、第二期、第三期が完成されて、完全な特定街区が出来上るのである。

すでに、この街区の名称も両生保との合意の上で、エステック（Shinjuku Techno Campus）として新しい機能を発揮するように努力している。

これからは、新宿と八王子の校地や施設を活用して新しい工学院学園全体の発展にとり組む時機にきている。

何と云っても、学園の発展は、大学、専門学校、高等学校の質の高度化と量の拡大がその根本である。

学園はまだ諸設備や校地を十分に活用しているとはいえない。

学園発展の将来計画は法人と教学と校友会が一体となって進めなければならない。

工学にとらわれない新しい学部の計画も皆で充分検討して至急に合意を持って実現に向けて始動しなければいけない。

八王子や富士吉田の校地をさらに活用して新しい学部を建設しなければいけない。

時代は狭い意味の工学の範囲を超えた学部を要求している。

都心型大学の典型としてこれを十二分に活用することはもちろんであるが、さらに将来に向けて新しい学園像を考えてこれを推進しなければならない。

校友の皆さんも伝統を尊ぶと同時に新しい学園像を勇気をもって応援して頂くことが大切な時機にあることを自覚してほしい。

学園の一大発展期に思う

工学院大学学長 北郷 薫
工学院大学専門学校校長

本学園の校友の皆様方におかれましては、お元気にご活躍のことと拝察致します。

学園将来計画に従って建設中でありました新宿新校舎高層棟が平成元年7月末日に竣工、翌日の8月1日に盛大な竣工式を開催し9月の新学期からは大学および専門学校の教育・研究に活用しています。

工学院大学の新宿校舎は100年をこえる本学園の歴史のなかでも特筆されるべきことであります。古い伝統に培われた堅実な学風が陥りがちの古臭さを一気に打破することができました。新校舎の校門を出入する学生諸君の顔が一段と輝いて見えます。これは私の「ひいき」目ではありません。新校舎を訪問された他大学の先生方が「貴学の学生諸君の顔が自信に満ちて見える」といわれるのですから誰の目にも明らかなことなのでしょう。

これこそ、われわれが一番望んでいたことであります。新宿新校舎は建物が新しいだけではありません。新しい高度技術社会に貢献する技術者を教育するための情報システムが完備できるように基盤整備されています。ここで忘れてならないのは八王子校地の存在です。工業技術の研究・教育に必要な設備で新宿新校舎に設置することが困難なものは八王子校地に置いてあります。八王子校地の研究棟群の整備も目を見張るものがあります。

本学園はさらに新宿校地の第2期工事で専門学校棟として中層棟を建設中であり、高等学校の整備にも着手しています。これらの建設、整備ができ上る平成4年には、各学校とも現状よりはるかに立派な校舎群となっていることでしょう。

われわれ教職員一同は、これらの新校舎にあわせて、教育内容の刷新をはかりどこにも負けない学園とするよう努力中であります。校友の皆様方の絶大なご声援を期待申し上げます。皆様方のご健康とご活躍をお祈り致します。

新たなる出発

工学院大学高等学校校長 黒谷 義雄

第2次世界大戦後の混乱の中から、それまでの同窓会を発展解消し、母校振興を目的として、昭和27年3月に校友会が結成され、その年の9月に発行された会報が創刊号とのことで、以来37年、学園の発展状況、校友の消息ならびに校友会の活動状況を知らせ続けて来た訳ですが、さらにまた滞ること無く、ここに第111号が発行されますことは、校友各位のつねに変わらぬ母校愛の賜物と、深く敬意を表する次第であります。

さて、学園が大きく変わりつつあることは、皆さんもすでによくご承知のことと存じます。そのような流れの中にあつて、高等学校もより良いものにならなければならないと、教職員一同、努力をしておるところでございますが、愈々、本年4月より工業科生徒の募集を停止し、普通科生徒をこれ迄の倍の400名にして募集致しました。

これは、本年から始まる受験生人口の急減と全般的な普通科志向への対策ですが、こうすることによって、施設の面、財源の面、人事の面でこれ迄と比べ、はるかに効果的な運営が出来、また、教育効果も一層向上するものと信じています。

新しい普通科は、工業教育を標榜する本学園の高校としての利点を活かした、時代に相応しいように、情報処理教育をはじめとして、工学関連の教科を組み入れ、本校の特色とします。

教育施設や指導組織も当然そのような考えに沿って改善されますが、図書館、情報処理教室、工学科目指導室、L教室、進路指導室、生徒指導室など、新しい普通科に対応する、より効果的な施設の利用計画が本年7月迄には纏まります。

また、校務分掌組織もこれ迄の教頭、教務主任の他に総務主任、進路指導主任、生徒指導主任を置いて、一層の施設の充実向上、進路指導・生徒指導の充実強化を図って参ります。

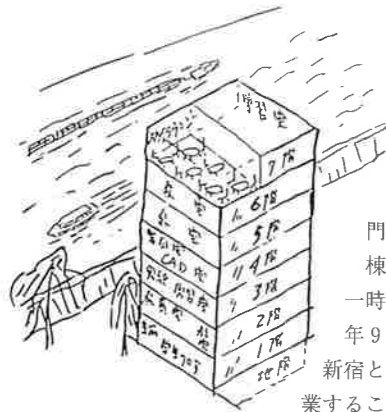
高校時代というのは、人格形成の上で一番大事な時期でありますから、生徒一人ひとりが勉強にスポーツに思いつき励むことが出来るようにしてやりたいと思っております。

どうか、校友の皆様方には、益々のご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

● 両国校舎紹介

工学院大学専門学校 両国校舎
開校について

専門学校校長補佐 山本 清
両国校舎管理責任者



新宿校地再開発事業第二期工事の内、平成4年度に完成予定の専門学校新校舎(中層棟)ができるまでの一時的処置として、昨年9月から専門学校は新宿と両国に分かれて授業することになりました。

新宿校舎(大学棟の一部使用)については良く知られている事と思います。今回は機会を得ましたので、両国校舎についてその概要を記しておきます。

武蔵国と下総国の両国に架け渡した「両国橋」、この東詰め界隈、「本所」一帯は、江戸時代、大名の下屋敷や旗本屋敷が数多く居を構えていたところとして知られています。

大川(墨田川)を目の前に旧藤堂和泉守下屋敷跡あたりに建てられた、地下1階地上7階の近代的建物が、工学院大学専門学校両国校舎です。

JR両国駅より歩いて1分、と至近距離にあり、大相撲国技館とは道路をはさんで反対側、隅田川のほとりの静かな環境が、まづ大きな特徴と言えます。

現在此処には昼間部のみが入っており、機械科1、2年4クラス、電



CAD室



チョンマゲ着物姿

気技術科1、2年2クラス、応用化学科1、2年2クラスの計8クラス約500人が通学しています。

ビルに入って「1階」は、受付、学生フロアで、総ガラスばりのフロアは両側に植栽が施こされ、カーベットが敷かれた床には、ゆったりとしたソファが置かれ、休憩時の談らんの場として学生達に広く利用されています。又1部を生協が占め、文具、弁当など新宿と同じようなものが販売されています。

「2階」は、教員室、事務室、講師室、1部を教室に使っています。

南側の窓は大きく日当たりが良く、西側の窓からは、隅田川を行き交う舟を散見することが出来ます。

「3階」は、実験実習室で、4つに区分けされた部屋で、機械、電気科の実験、実習の授業が行われます。

「4階」は、CAD/CAM、コンピュータ室と製図室です。

基礎的なマニュアル製図の大切な事もさること乍ら専門学校として、時代の要請に即応するCAD教育はこれからの重要な教育課題です。

30台のCADと3セットのCAMを使った、実践的教育は、両国校舎ならではの大きな特色と言えます。

「5階、6階」は一般教室です。

「7階」は、学生が自由に学習する場所です。又就職に関する資料が

揃えてあり、時には就職相談所にもなります。

このフロアの約半分は屋外ガーデン(スカイラウンジ)であり、ガーデンテーブルセット、飲物の自動販売器等が設置され、学生達の憩の場となっています。

隅田川を一望に見下せる好位置にあり、江戸の風物詩、両国の花火のときなどは「特等席」になることは請けあいです。

「地下1階」は駐車場、倉庫、そして時には実験実習室としても使われる、多目的フロアです。

以上地下1階から地上7階まで総床面積「1600㎡」のビル1棟をすべて専門学校が使用し、その内2フロアは学生の為に使われ、快適でより良い学生生活を過してもらえるよう配慮されています。

従来新宿まで通学が無理だった千葉南部や、茨城県地方の進学希望者にとっては、朝9時半始まりという時間的余裕と相俟って、より多くの入学者を望めるのではないかと、期待致しております。

学校のある此処墨田区横網町は、歴史的にも興味ある街で、近くには、永い間大相撲の定場所であった「円向院」、その境内には義賊、鼠小僧次郎吉の墓、またその裏手には、忠臣蔵でおなじみ、赤穂浪士討入りの吉良上野介義央の屋敷跡、そして、ここ「本所」一帯を舞台に活躍した、江戸っ子旗本、勝小吉と麟太郎(勝海舟)の誕生地の碑等々があり、「史跡の探訪」の道すがら、チョンマゲ、着物姿の男達(力士)とすれ違ふと、江戸時代へ



勝海舟誕生の地

タイムスリップしてしまったような感じを受けさせる土地がらでもあります。

また、隅田川の土手沿いに北へ足を向ければ、旧安田庭園、蔵前、厩橋、駒形と出て、その先が桜堤の向島。浅草のにぎわいと並んで下町江戸文化の名残りを留める多くの史跡を見ることが出来ます。



鼠小僧次郎吉の墓

江戸時代の両国界隈の有様を「江戸名所図会」に『此地の納涼は五月二十八日に始り八月二十八日に終る。常に賑はしといへども、就中夏月の間は尤盛なり。陸に見せ物所せまきばかりにして、其看板の幟は風に翻ってへんぼんたり、兩岸飛楼高閣は大川に臨み、茶亭の床几は水辺に立連ね灯の光は玲瓏として流に映ず』と描写しています。

現在は静かなたづまの町となっていますが大相撲両国場所の時はまさに、「幟が風にへんぼんと翻へる」風情が見られます。

以上両国校舎の内容とその周辺についての叙景を記して見ました。

新宿と違って、東京の一等地とは言えませんがそれなりに、勉学に適した場所と言えましょう。

まだあまり良く知られておりませんので、専門学校両国校舎について校友諸氏のより一層の啓蒙とPRをお願いする次第です。

工学院大学専門学校両国校舎
東京都墨田区横網1-2-28
電話03(829)3406・3084



吉良上野介屋敷跡



実験室



学生ホール

校友会創立90周年記念行事を終えて

実行副委員長 小高 鎮夫

工学院大学校友会創立90周年記念式典は、新大学棟の竣工のお祝いも兼ねて平成元年11月11日の11時より、新大学棟3階大教室で学園内外関係者をお招きし、校友会々員も含め、470数名の出席のもとに盛大に挙行されました。山崎実行委員長、丹羽校友会会長の挨拶に続き高山理事長、北郷学長（専門学校校長）、黒谷高等学校校長の祝辞、そして松浦学園開発本部長の学園新大学棟竣工の報告と挨拶に続いて“校友会役員”“支部関係者”“単体同窓会関係者”の功労者表彰と、式典第1部は、厳粛の内に無事終了致しました。第2部は、昭和63年度に文化勲章を授賞された今井功先生による「流体力学に学ぶ」の記念講演が行なわれました。又28階におきましてはバンドもまじえなごやかに記念祝賀会が行なわれました。この1・2部の詳細については平成2年1月に発行した「工学院大学校友会創立90周年記念誌」に詳細を掲載致しました。その一部は本文にも掲載してあります。

所で今回の校友会創立90周年記念行事は昭和63年度の足立剛一前会長のもとで企画し、決定され、企画部を中心に具体案が検討されました。そして平成元年度の丹羽新校友会々長の指導のもとに、各部の協力を得て創立90周年行事実行委員会が組織されました。創立90周年記念行事は、10年後の創立100周年記念行事について実績を作っておく事、校友会に貢献して頂いた先輩や役員を多数表彰する機会を持つ事、新大学棟が竣工した年であり、そのお祝いを兼ねた事、校友会関係者に建物見学をして頂く事、そして“工学院大学学園創立100周年記念事業募金”に協力する事等を目的としておりました。幸い会員皆様のご多数のご出席と、本学園と卒業生に深い関係の深い企業及び現在工事中の共同企業体の協賛を得て、無事に終了致しましたが、校友として校友会が90年の歴史を通しその時代に於いて工学院大学学園の発展に深いかかわり合いを持っていることなど、この記念行事の開催により少しでも関係各位にご理解願えたら幸甚と思います。校友会の行った創立記念行事は、大正3年4月4日「工手学校同窓会創立15周年記念大会」と大正13年5月11日「工手学校同窓会創立25周年記念」を上野公園精養軒にて、昭和3年6月3日「東京工業会創立30周年並びに母



校新築落成記念大懇親会」（当時は会名を東京工業会と称していた）を淀橋新校舎において開催しております。創立30周年記念は丁度、工手学校が大正12年の関東大震災により焼失し、新宿の淀橋に移転して3階建の新校舎が落成した年であり、当時は築地の土地よりかなり安く、今後の発展が期待される校地として選定されたわけで、60年後の今、東京都庁が移転する新都心となり、超高層の新大学棟が建設されようとは誰も想像しなかったことでしょう。

1887年工手学校開学、1899年の校友会創立は伊藤博文内閣の頃であり、日清・日露戦争そして1910年の日韓併合とこの20年間は江戸（1603～1867）時代の鎖国政策の空白を一気にとり戻すべく、富国強兵と植民地主義に走る工業日本にとって本学は正に国策上重要な工科系の学校であったことも改めて90年の歴史の中に見ることが出来るのです。

工手学校から工学院大学に至る歴史については『工学院大学校友会創立90周年記念誌』の中に編集してみました。「校友会の歩」は校友会と学園の比較年表に記述した通り、会名が「工手学校同窓会」、「東京工業会」、「工学院同窓会」、「工学院大学校友会」（一時併列で「工学院大学学園同窓会」発足）と変り、会誌名は「工手学校同窓会誌」、「工業之友」、「東京工業会雑誌」、「工業ト社会」、「東京工業会誌」、「工学院同窓会誌」、「工学院大学校友会報」（一時併列で「工学院大学学園同窓会誌」）の8回、一時併列を含めると9回の改題がなされていま

す。この事だけを見ても、いかに、校友会の90年の歴史が、様々な変遷を経て今日に至っているのか工手学校から工学院大学への道のりと共に理解出来ると思います。

また、すでに全国支部総会で会員が見て下さっている学園の歴史も含めた“校友会のPRスライド”をカラーページ（ナレーションも説明文として記す）で90周年式典も含めて再編集し掲載しました。

“築地そして新宿の今昔”は文明開花の頃の築地の様子と、本学園発祥の地がどういう歴史の意味を持っているのか、本学園以外、立教学院等ミッション系スクールがなぜ築地の地で開学していったのかなど日本の歴史の背景、又淀橋浄水場の前に浄水場候補地が別にあったこと、新宿西口再開発計画は本学大学生が30年前に既に発表していた事など、本学園の発展と共に展開する、築地と新宿の今昔について、校友会員に知って頂きたい我が

学園の歴史を別の角度からとらえてみました。

“新宿校地入手に関する伊藤真治氏の報告書”のページは大正12年の新宿（当時多摩郡淀橋）校地購入の経緯や超高層新大学棟竣工に続く二期工事の超高層オフィス棟建設の基礎となった特定街区の認可を必要とする四面道路に接する本学園の敷地入手について伊藤氏（工手学校土木科を大正12年に卒業）の報告書を原文のまま掲載したものであります。このレポートは伊藤氏が、現在学園が発行予定の100年史への資料として提出したもので校友が如何に工学院大学学園の発展を願い、水道局浄水場三角跡地購入が超高層学園建設の基礎となっているかを知って頂けることと思います。

一記念誌を希望する方は校友会事務局へ

ハガキでお申し込み下さい。—

校友会90年の歴史——10年前を想う

元学園同窓会々長 八木 平八郎

1980年3月31日発行の「工学院大学学園同窓会報」№11号（最終号）の表の写真を飾っているのは“新しく、八王子に建設された八王子図書館”であり、最初のタイトルは“学園同窓会の発展的解消を迎えて”学園同窓会会長八木平八郎——私としては思い出多い10年前を改めて振り返っています。以下その書き出しの部分抜粋すると「昭和42年11月山根前会長のもとに同窓会の連絡協議機関として学園同窓会が発立されて以来昭和54年12月2日開催の第13回最終代議員会迄の12年余にわたり、大学は各学科別、専門、高校は学校別の卒業生の上部機構として学園同窓会は充分なる役割を果たして参りました。昭和47年9月にはすでに第一回の合併問題研究会が持たれており、それはいかに学園の卒業生が合併を望んでいたかの現れであったと思われまふ。……」そして新校友会発足に際し当初同窓会を中心とした“代議員制”をとり、“社団法人工学院大学学園校友会”をもって合併の条件とすることを旧校友会との両会での決定事項とし

ましたが、最終段階で法人格を維持する以上は法人格を持つ“校友会”の名称を継承すること、総会も代議員で構成することは前例がないこと理由で、文部省からは共に承認を得ることができませんでした。この様に文部省の指導により昭和54年9月2日に校友会と学園同窓会の合併後の第一回校友会総会を開催し、前島為司氏を会長として6同窓会を中心とした新生“社団法人工学院大学校友会”が発足したのです。明治、大正、昭和、そして平成の新たな時代の中で90周年を迎え、合併に10年近くかけた両会より選出された合併小委員会12名のメンバーの努力を忘れることが出来ません。しかし時代と共に組織は変化してゆくものであり、10万になろうとする卒業生に何をしたら良いのか、校友同志の新たな交流と結束について改めて検討する時代がやって来たことを思う。同窓会、そして支部、単体同窓会の発展を心よりお祈りする次第です。（元機械工学同窓会会長）

● 学園近況報告

学校法人

本学園関係者の叙勲等受賞について

(平成元年4月～12月)

松尾靖秋名誉教授が勲四等瑞宝章(平成元年春)、高等学校黒谷義雄校長、牛木亮三教諭、小澤和男教諭、加藤健司教諭、木俣滋郎教諭、後藤道夫教諭、小林富次郎教諭、千田吉郎教諭、外山昭二教諭、宮澤義勝教諭、柳澤明教諭、渡部知彌教諭が八王子市市民文化表彰(学校教育功勞、10月1日)を受けられました。

創立百周年記念総合工学研究棟の前期工事竣工について

八王子校地に建設中の創立百周年記念総合工学研究棟は、平成元年8月31日前期工事が竣工し、竣工式が学園関係者約40名出席のもと、同年9月11日午前10時30分から同研究棟で行われた。

続いて、午前11時から5号館9階多目的ホールで祝賀パーティーが行われた。

大 学

● 社会人教育の基盤整備に向けて

近年、社会の各分野において生涯学習への関心が高まり、大学やカルチャ・センター等において、個人やグループが様々な機会や手段・方法を利用して多種多様な学習活動を行っている。

本学はいま、この社会的ニーズ(欲求)に応えるため、社会人教育の基盤整備に向け具体的な施策を練っている。既に生涯学習センター規程が立案され、遠からずその事業活動が開始される予定である。

また、新しい夜間教育のカリキュラム案も示されつつあり、今後学内外の諸手続きが順調に進めば、平成3年4月には第2部授業が開講の運びとなる。

このように本学は、人々の学習意欲に応える方途の研究を進めるとともに、科学技術の高度化や情報化・国際化の進展により、絶えず新しい知識・技術の習得が要求

下記のとおり寄付がありました。

沖電気工業(株)から、if 1000 UNITOPIA model 20 システム一式(3,621,000円)。松下電器産業(株)から、新大学棟視聴覚教室用として大型映像表示装置「ビデオプロジェクター」7台(13,825,000円)。(株)東京計器から、機械工学科用としてポータブル型超音波探傷器一式。京セラ(株)から、高等学校用としてA D-一眼レフカメラ一式。小松 実殿から機械系学科、機械設計研究室用として、NS高速ネジ弛み試験機一基。大学後援会から、大学学生の福利厚生のための補助金として1,320万円、新大学棟における学生のための施設設備費用として3,000万円。工学院大学高等学校後援会から、高等学校用として29人乗マイクロバス1台、昭和61年度高等学校PTA会長菊地 功殿から、教育用ロボット一式。

創立百周年記念事業募金申込状況について

平成2年1月31日現在
 申込件数 9,213件
 申込金額 633,640,692円

される社会に対して本学の立地を生かした特色のある教育・研究の提供形態を日夜模索している。

● 教職特別課程の設置

教育職員免許法規則等の一部改正に伴い教職特別課程を現在申請中である。(3月下旬、認可の見通し)

この課程は教職課程の認定を受けていない大学の学部卒業生・大学院修了生を対象として、教職に関する専門教育科目を履修させて免許状を取得させる1カ年の課程である。学生募集は、平成2年4月からの予定である。

● 入学志願者状況

1990年度の大学第1部入学試験は2月6日～9日の4日間にわたって行われた。志願者数は、受験生の理工系ばなれ、併願校との入試日程の重複などの影響をうけて前年比19%減の14,160人となり、入学定員に対する平均倍率は15倍であった。なかでも電子工学コース、建築学科の志願者数の減少が著しかった。

● 就職状況

平成元年度の求人状況は、日本経済の「いざなぎ景気」

を上回る好景気に支えられ、各企業とも採用意欲が旺盛で、学生側の超売手市場となった。求人会社数は、前年度に比べ767社増の7,376社、求人延人数は前年度19,739人に対し22,573人で2,834人の増加となった。これは本学開設以来最高であった。特に、求人学科を特定せず幅広い人材を求めている企業が多く、一社あたりの求人数が各学科にわたり増加している。また、従業員数500人以上の企業からの求人が11%増加し、高水準となっている。

一方、就職状況は、従業員数1,000人以上の企業への就職者が全体の68%を占め、前年度の56%を大幅に上回った。平成元年度における各企業の採用活動は、予想をはるかに上回るペースで行われ、内々定も5月下旬～6月中旬に集中し、7月上旬には主な企業の結果が殆んど出揃った。総体的には、大都市・大企業への集中化が目立ち、Uターン率は低下している。



1990年度 入学試験結果 (一般入試)

2月17日現在

部	学科・コース	定員	志願者数	競争率	前年比増減率	受験者数	合格者数	実質競争率	
								90年度	89年度
第1部	機械系学科	230	3,242 (27)	14.1	▼ 542	3,100	682 (6)	4.5	5.4
	工業化学科	120	1,530 (107)	12.8	▼ 34	1,491	360 (34)	4.1	4.1
	化学工学科	80	973 (40)	12.2	△ 105	925	249 (11)	3.7	3.2
	電気工学科	130	1,669 (19)	12.8	▼ 375	1,619	401 (4)	4.0	5.4
	電子工学科 電子工学コース	140	1,605 (39)	27.5	▼ 989	1,549	358 (12)	4.3	8.3
	電子工学科 情報工学コース		2,246 (117)		▼ 426		2,131		
	建築学科	220	2,895 (242)	13.2	▼ 1037	2,804	533 (49)	5.3	10.0
合計	920	14,160 (591)	15.4	▼ 3298	13,619	2,866 (133)	4.8	6.7	

注) ()内は女子内数。

● 学園近況報告

専門学校

平成元年度主要行事

昼間部正課の体育授業が本年も活発に行われました。夏季学外体育として、バレーボール、硬式テニス、卓球、サッカー、ソフトボールなどは、山梨県の忍野村で4泊5日の合宿授業が行われ、さらに冬季学外体育では、スキーが菅平にて同じ合宿授業として実施されました。また秋季恒例の第42回製図・作品展は、11月24日～26日の3日間、新大学棟28階において、昼・夜間部が一致協力して行う伝統行事として開催され、新大学棟完成の記念すべき年を飾りました。なお、これに先立ち両国仮移転校舎の開校披露が、9月14日に行われました。これは再開発による校舎建替中の、新大学棟と両国棟への分離授業に伴う行事でした。その他、6月の父母会総会（昼間部）、7月の電卓検定試験、各科主催の資格受験講習会の随時実施なども定例の行事でした。

平成元年度就職状況

連続の好景気を反映し、514名の求職者に対し、延7266社、11210人（前年比で31%増）の求人がありました。主な就職先は、東京電力、青木建設、大和ハウス工業、三菱レイヨン、トーヨーサッシ、日清紡績、カヤバ工業、サンケン電気各2人、清水建設8人など資本金100億以上67人（13.4%）、新川、アマノ、日本アビオニクス、大木建設、大林道路、加藤製作所各2人など10億以上115人（22.9%）、新日本建設5人、佐藤秀工務店、細田工務店、明電エンジニアリング、菱冷社、山加電業、日本システム、日本電業、増田建設各3人など、1億円以上170人（33.8%）であった。

また、1億円未満の企業には123人（24.5%）、公務員等非営利団体27人（5.4%）のような全体分布となりました。なお、



第42回製図・作品展風景

就職先の業・職種別初任給（諸手当、税込み）は下表のとおりでした。

業・職種	初任給区分	最高	最低	平均
土木測量・調査・設計・施工		164,500 ^円	147,000 ^円	156,290 ^円
建設・施工技術		203,200	138,000	163,494
〃・設計監理		160,100	144,700	152,422
建設設備・設計・施行監理		187,000	135,000	154,001
施設機械・保守サービス		180,000	134,000	153,391
電気・電子機械・生産技術		163,000	132,000	142,443
情報処理・技術		171,000	123,000	150,993
化学系生産管理・品質管理・測定分析		173,000	135,000	149,036
全業・職種別初任給		175,225	137,800	152,759

高等学校

自然科学部「内閣総理大臣賞」受賞

昨年の校友会報（110号）で自然科学部の活躍についてご報告いたしましたが、「超電導モータ」に取り組み2年目の今年、ついに念願の「内閣総理大臣賞」に輝きました。後藤・小川両先生の指導の下、部員一同がたゆまざる努力を続けた結果であると、教職員一同大いに喜んでおります。33回目にして都内の高等学校で初の栄誉、このことから今回の栄誉がいかに素晴らしいものであるか、お分かりいただけると思います。

この受賞を記念し、2月3日(土)14時より本校視聴覚教室において、「受賞記念発表会」を行いました。多くの父母の参加を得、PTA・後援会・同窓会等から祝福をいただき、関係者一同大いに感激いたしました。この受賞に奢ることなく次の研究に取り組んでいる自然科学部に、これからも期待が寄せられます。

各クラブの活躍

平成元年は、自然科学以外のクラブでも例年ない活躍が見られました。

野球部は、秋季都大会でベスト8まで進み、神宮球場へ教職員・父母が応援にかけつけました。柔道部は、5月7日に行われた都大会でベスト6になり4年ぶりに見事関東大会への出場権を得ました。バレーボール部は八王子地区春季大会で優勝、空手部は都総体個人の部で優勝と素晴らしい実績を残してくれました。また、美術部は八王子市内展で2名入選という活躍をしてくれました。

紙面の都合で書き切れませんが、他のクラブも活発に活動しております。平成2年度には、本校の各クラブに例年以上の活躍が見られると期待がもてます。

高等学校後援会からマイクロバス寄贈

平成元年の各クラブの成果に喜んでくれた後援会が、今以上に各クラブの活動が盛んになるよう、また教育活動にも役立たせてほしいという気持ちから、高等学校に29人乗りのマイクロバスを寄贈してくれました。「工学院大学高等学校」という名前が入ったバスが、生徒を乗せて各地を走ります。感謝申し上げます。

施設の充実

念願であったグラウンドが、排水路を完備した本格的なグラウンドに改修されました。3月末までには、照明塔も3基設置されます。また、本館と1号棟の2、3階を渡り廊下で接続する工事、1号棟脇の通路拡幅工事等が年度末に行われ、4月以降生徒がより移動しやすくなります。

進学、就職状況

1月末現在の進学者は、工学院大126名、国士館大2名、帝京大、大正大、秋田経法大、西東京科学技術大に各1名、工学院大専門学校40名、他の専門学校に90名の状況で、進学決定率は約62%の状況です。

また、就職は例年ない多くの求人会社数の中で希望者48名全員が10月末に内定し、自営を含め49名となりました。主なる就職先は、東芝、日立、本田、日野自動車、東京電力、日産自動車、コニカ、日本電気、警視庁などでありました。



●支部だより

■富山県支部だより

昨年6月11日に富山市の呉羽カントリークラブで行われた第1回県東京理工6大学OBゴルフ大会に参加(支部長の山本修氏他8名)した。その結果、善戦むなしく団体戦では3位にとどまった。個人戦では、山田武生氏が59名中4位に入賞した。

- ▽団体戦 ①武蔵工大 ②東京工大 ③工学院大
④東京電機大 ⑤芝浦工大 ⑥東京理大
- ▽個人戦 ①高島 勉(東京工)
②金山宏明(武蔵工)
③得永秀二(東京工)
④山田武生(工学院)

— (笹川 武) —

■平成元年度支部総会報告

平成元年度は校友会創立90周年という記念すべき年に全国80支部中、23支部に於いて、支部総会が開かれ、延べ500余名の方々に参加され、活発に活動されました。

開催支部は以下の通りです。

- 5月21日 栃木県支部 (32名)
- 6月4日 秋田県支部 (16名)
- 4日 愛知県支部 (18名)
- 11日 宮城県支部 (14名)
- 17日 鳥取県支部 (8名)
- 18日 山形県支部 (12名)
- 7月1日 東芝支部 (30名)
- 2日 群馬県支部 (30名)
- 2日 山口県支部 (10名)
- 2日 千葉県支部 (40名)
- 14日 日本電気支部 (16名)
- 8月26日 北海道支部 (27名)
- 9月3日 宮崎県支部 (13名)
- 9日 広島県支部 (32名)
- 30日 兵庫県支部 (49名)
- 10月7日 多摩支部 (6名)
- 22日 青森県支部 (10名)
- 11月5日 静岡県支部 (50名)
- 10日 川崎支部 (18名)
- 18日 荒川支部 (10名)

- 25日 大阪支部 } 合同総会 (23名)
- 25日 京滋支部 }
- 12月2日 中野支部 (9名)
- 2月4日 愛知県支部 (23名) 新年会

■平成2年度支部総会開催予定

平成元年6月25日の全国支部長会議に於いて議決された一つに、次年度からの校友会報に、支部総会開催予定支部を、ご案内して一人でも多くの校友の皆様に参加していただくと言う企画の基に、平成元年中に、支部総会を開催した支部及び2年に1度位の支部に対しまして、ご案内を申し上げたところ、下記の支部長さんより、ご連絡をいただきましたので、ご案内申し上げます。

何分先のことですので、総会の近くになりましたら、連絡先の方に電話を入れて、総会日時・場所のご確認の上、ご出席いただきますようお願い致します。

- 平成2年
- 4月22日(日) 千葉県支部 場所 工学院大学内
連絡先電話 0474-48-4811
 - 6月9日(土) 江東支部 場所 校友会会議室
連絡先電話 03-641-2379
 - 5月27日(日) 午後1時より秋田県支部
場所 秋田県山本郡二ツ井町きみまち坂観光ホテル
会費 一人 7,000円の予定
連絡先電話 0188-79-2020
 - 6月10日(日) 山形県支部 場所 未定
連絡先電話 0236-84-1576
 - 6月18日(土)又は6月30日(土)
大阪支部 場所 東洋ホテル予定
連絡先電話 06-322-0317
 - 6月30日(土) 愛知県支部 場所 未定
連絡先電話 052-833-2811
 - 8月中旬頃 北海道支部 場所 未定
連絡先電話 011-781-7854
 - 9月23日(日) 多摩支部 場所 未定
連絡先電話 0425-23-1984
 - 12月上旬頃 中野支部 場所 未定
連絡先電話 03-384-1511

■平成2年度 全国支部長会議のお知らせ

期日 平成2年10月20日(土)午前11時30分
午後2時30分まで
場所 静岡ターミナルホテル<静岡駅前>
学校側出席者 北郷学長

飯田就職課長

と、入学担当課長を予定しております。

現在の母校の様子を知ってもらうために、ぜひ出席してもらい、説明を受けたいと思っております。

■組織部よりのお知らせ

首都圏支部の不活性支部の統廃合について

平成2年3月現在都内には25支部、埼玉県3支部、神奈川県5支部、この1都2県の33支部に卒業生約38,000余名在住しております。卒業生全体の約80%が居る訳ですが、毎年総会を開催している支部は4ヶ所、2年に一度位は、3ヶ所と言う有様です。埼玉県に於いては、この2ヶ年間に1ヶ所も開催されていない有様です。都内に在住する卒業生は約2,100名余ですが、支部総会を開催して参加する人は10名前後と言う有様です。都内25支

部の内20支部は現在活動停止中と言ってもよいくらいです。

時代の流れの中で大手線内に在住する卒業生も少なくなり、又在住の皆さんの中にも高齢化してお手伝出来なくなった先輩もおいでで、もろもろ問題の中で、諸先輩の築いた伝統を大切に、支部の活性化を考え実行してゆきたいと考えております。

そこで、卒業生の皆様にお集まりいただき、どうしたら支部活動の活性化が出来るのかお知恵をいただきたいと考えました。下記の日時にお集まりいただければ幸いです。

平成2年7月7日(土)午後1時30分～4時まで
会場 工学院大学校友会会議室<28階>

議題 不活性支部の統廃合と今後の支部活動について

注意 会場の整理の都合上 6月30日(土)まで
校友会事務局<TEL03-342-2064>

まで、出席する人はご連絡いただきますようお願い致します。

多くの方の出席をお待ちしております。

支部活動にお力添えいただける人を探しております。我こそはと思う方は、どしどし立候補して下さい。校友会事務局組織部までご連絡下さい。

第9回全国大会(静岡大会)開催のお知らせ

記

1. 開催日 平成2年10月20日(土)21日(日)
2. 会場 静岡ターミナルホテル
〒420 静岡市黒金町56番地(静岡駅北口)
TEL (0542) 54-4141(代)
3. 受付 13時、開会 14時半
参加会費 (一泊) 18,000円、観光7,000円
詳細は、下記へお問い合わせ下さい。
校友会本部 03 (342) 2064
静岡県支部 0542 (82) 3855
尚、全国支部長会議も同日開催を予定しております。

校友会 事業部 / 静岡県支部

工学院大学と私

校友会広島県支部長 舛井 寛一

私の机の上にコンクリート破片の文鎮がある。これは六十数年振りに工学院大学の新宿校舎を建て直すにあたり、取り壊した旧校舎の基礎部分で作られたもので、昭和十六年の春から十九年の卒業まで、この校舎に通学していた私には感慨深いものがある。

大東亜戦争の始まった年に、早稲田大学の中にあった工手学校の受験に失敗し、新宿の工学院（元築地の工手学校）に拾われて、芝白金台町の叔母の家から通学することになる。現在の新宿の街の発展ぶりは想像もできないが、遅刻しそうになると青梅口から島の中を歩いて行ったのである。校舎の前は道路一つ隔てて淀橋の浄水場があった。

遅まきの向学心で「志を立て、郷を出ず」という気概に乏しく、本気で勉強するところまでいっていない私に、似た者が集まるもので、入学してすぐに上級生の悪どもに目をつけられ、貴様の「やさ」はどこだ、などと言われ、その返事に困ったことがある。

そういうある日のこと、嫌いな英語の時間に誘われて、武蔵野館の近くにあった卓球場に行こうということになり、学院と精華女学校の間にあった、熊笹におおわれた小山に集合する。校舎の窓からまる見えなので、しばらく隠れるように潜んでいると、五、六人が集まり上級生のリーダーの先導で移動し始めたときに、突然現われた恐しい生徒監につかまってしまふ。有無を言わず生徒証を没収されて、なすところなく、ぞろぞろと曳かれて学校へ連行された。

常習犯のみんなは、型通りの説教で放免されたが、どうしたことか、一番下級生の私はそうは行かなかった。

初犯ゆえか、最初が大事と思ったのか、あることも知らなかった地下室の柔道場に連れて行かれて、それこそ、取っては投げ、千切っては投げの連続で、こてんぱんにのされ、制服？の詰襟が半分ほど千切れて立ち上がれないぐらいしごかれる。

ようやくにして明日から、反省の日記を書いて持って来て見せると、いうことで説教は終わった。襟が半分取れた服ではどうにもならず、校舎裏の売店で針と糸をかりて繕い家路につく。日記には、明治神宮へ皇軍の武運長久の祈願に参拝しましたなどと殊勝なことを書いたのもその頃で、日記は当分続いた。

やがて豫科から本科に進み、授業は夜間に変わり、当然ながら昼間は造船統制会という所で働き、丸の内のオフィス街から新宿まで中央線で通学することになる。今でもそうだが、夜学に通う学生は夕食が不規則でままならず、空きっ腹をかかえて授業を受けることが多かった。

その頃のことで、いつものように授業が終わって、学友の鈴木と新藤の三人で近くのうどん屋に飛び込んでうどんを頼む。店内は学院の生徒で満席になり、店内一杯に広がる美味しそうな料理の匂いに、食べ盛りの学生達の腹がぐうぐう鳴った。

間もなく若い女店員が、
「うどん三杯はどこ」

と、湯気の立つうどんを盆にのせて我われの席に近づいて来た。自分達のものにしては、少し早

いなと思ったが、旨そうな匂いに誘われて多少茶目っ気もあって、私がつい、
「ここ、ここ」

と言ってしまう。本当は奥の方の学生が注文したもので、ていのいい差し繰りの横取りである。後ろめたさもあって、早々にうどんをかき込み金を払って店を出ようと立ち上がったとき、奥の方の上級生から声がかかった。

「その三人、ちょっと待て」

やがて四、五人の上級生に囲まれて店から出る。彼らは私に向かって、

「貴様は我われが頼んだうどんを先にとって食ったな」

と、言うや、やには殴り飛ばされる。パッパッと目から火が吹いた。電光石火という言葉があるが、正にその通りで目を回してアスファルトの路上にぶっ倒れる。ひっくりかえった私は、ややあって半目をあけて見ると、やられたのは私一人で、上級生は、

「あした拳闘部まで来い！」

と、捨ゼリフを残して立ち去って行った。ようやく同級生に助けられて、正気にかえった私は、彼らが拳闘部に所属する上級生であることを知る。この時めてめえの「やさ」はどこかと訊かれた記憶がある。それは、そのころの私の言動に不良っぽいものがあったのかもしれない。

遠い昔のことながら、戦局はミッドウェイやガダルカナルなどで転進という敗退が続き、泥沼の様相を呈して来たが、多くの国民には真相は知らされず、勝利を信じ欠乏に耐えて、一億玉砕という言葉が出るようになる。やがて学校の授業も警報などで、落ち着いて出来なくなった、そんな昭和十八年のある日、どうしたことか、授業中の教室内でうっかり口笛を吹いてしまった。それは数学の時間で老講師だったが、

「誰が口笛を吹いたか、名乗り出ろ」

ということになった。教室内の雰囲気もざわついており、深刻な罪悪感を伴わないこともあって、ついに私は名乗り出る勇気がなかった。そのうちに講義が再開され、悪いことをしたと、内心良心をとがめながらも、いつしか時間が経過した。ところが心教室にあらずというか、こともあろうに、またぞろ口笛を吹いてしまった。まったく思い知らず、無意識に口から出たものだから、弁解無用で許されるはずがない。ゴルフでも累犯は失格である。激昂した老講師は、

「名乗り出なければ全員落第だ！」

それまでは、悪気のないはずで、拳骨の一発ぐらいですむと思っていた。甘い考えはいっぺんに吹き飛んでしまう。名乗り出れば「落第」は間違いないし、出なければ同級生全員に悪いので、私は重大な岐路に立つはめになり、今のように留年などというしゃれた言葉もなく、当時の「落第」は苦学生にとっては大変なことで、ことほどに大事件に進展する。目に浮かぶのは故郷広島島の母の顔で、どんなにか悲しむだろうと思う。先ず学資が続かないだろうと、私の心は警報中の夜空のように、まっ暗闇になる。講師はついに生徒全員にメモ用紙を配布した。

「この紙に口笛を吹いた生徒の名前を書け！」

無惨な言い渡しで、絶体絶命、進退極まるとはこのことで、生きた心地もなく、ただ神に祈るばかりだった。授業を中断した教室は静まり返り、肅々とメモ用紙は集められ、重苦しい空気の中で厳重なチェックが始まり、最後の審判である。

しかし、開票の結果は意外にも全員白紙だった。私の心は震えながら級友たちの友情に泣いた。講師の怒りは頂点に達し、

「全員落第！」

と、言い残し、決然と教室から出ていった。か

くして教室は悲壮な沈黙に包まれて、しばし困惑の虚脱状態となる。ややあって総代をしていた鈴木君が、犯人になり代わった出口君を伴って謝りに行く。職員室の老講師は、犯人はお前ではない。身代わりかと言い、その後、この件は不問となり、私はこの年の数学だけは徹夜を繰り返し、人の三倍は勉強して、頑張り抜いて進級に成功する。

拳闘部の先輩に殴られた事は別として、柔道場で投げ飛ばしてまで、根性を叩き直してくれた生徒監や、口笛の一件で全員白紙を出した友情に助けられ、以後、心を入れかえて専心勉学に励み、下宿先の叔母から私が総代になったら、銀座通りを逆立ちして歩いて見せると冗談を言われたが、努力の甲斐があって卒業年次は、その総代に選ばれて、戦局ただならずで卒業式こそ省略されたが、造船協会から表彰を受けて、記念品の万年筆を買った。

年ふり、あれから、約半世紀の歳月が流れ、昭和六十三年の秋、さしたる功績もないこの私に、藍綬褒章の受賞という栄誉を担うに至ったのは、百年の伝統に培われた工学院の教育と友愛によって形成されたと言っても決して過言ではない。

去る昭和六十二年の十月に挙行された、工学院

大学の創立百周年記念祝賀会に続いて、今年十一月、校友会の創立九十周年の祝賀会が、新しく完成した、新宿の一等地にそびえ立つ、二十八階建ての超高層ビルの最上階で催されて、それに出席した私は、京王プラザホテル前に屹立する、ツートンカラーの新校舎を仰ぎ見て、低徊、目がうるみ、過ぎ去った古き良き時代の青春を偲んだ。

ちなみに新校舎は、隣にもう一棟、二十八階建てが新築されて工事は完了するが、日本の大学中で最も地価の高い所、言うなれば世界一高価な土地に建っている大学ということになる我が母校、工業日本の為に発展を祈ってやまない。

新宿現校舎お別れ会が行われた

平成元年8月完成の超高層新大学棟に移転の前に、同年7月17日本館5階建（昭和3年建設）、新館9階建（昭和35年建設）及び南館3階建（昭和54年建設）の校舎お別れ会を行って、教職員、在学生および卒業生が多数集り別れを告げた。

451講堂において、お別れ会（式典）があり、高山英華理事長および北郷薫学長のあいさつに続いて、各種イベントが学生を中心に行われ玄関ではもちつき大会などもあり賑やかに別れを告げた。

学園創立百周年記念事業 募金状況について

過去3年間の校友会各同窓会別募金申込み状況は次のとおりでした。目標額達成まで今年もご協力下さるようお願い申し上げます。

校友会員個人別募金基準額

- ・昭和42年以前卒業生 3万円以上
- ・昭和43年～53年卒業生 2万円以上
- ・昭和54年～平成2年卒業生 1万円以上

期間は5年間でありまして毎年基準額をご協力頂ければ目標（校友会3億円）達成ができます。

(平成2年3月末現在)

各同窓会	金額(円)
機械同窓会	20,264,838
応化会	22,169,000
電気同窓会	17,916,000
建築同窓会	19,352,000
高校同窓会	12,473,000
専門同窓会	20,256,000
工手学校	11,379,000
卒業生の経営する企業等	51,150,000
合計	174,959,838

●部会報告

総務部

総務部は、各部門の調整と常任理事会、理事会及び総会、評議員会のとりまとめが主な業務となっております。これらの業務を通して常に心がけたことは、第一に校友の親睦であり、第二に本学の発展であり、第三に学生への援助協力であります。以下元年度の活動の一端を報告致します。

第1回理事会（元・4・14）

議事 1. 63年度事業報告及び決算について

2. 役員業務分担について

第2回理事会（元・5・27）

議事 1. 校友会創立90周年記念行事について

第3回理事会（元・7・12）

議事 1. 名誉会長・顧問・相談役推薦について

2. 百周年記念事業募金活動資金活用について

第4回理事会（元・9・26）

議事 1. 定款改訂について

2. 新大学棟完成に伴う校友会の対応策について

第5回理事会（元・12・7）

議事 1. 定款改訂委員会について

第6回理事会（2・3・22）

議事 1. 平成2年度事業計画及び予算について
平成元年度事務報告

1. 会議の開催状況は下記の通り。

評議員会（元・5・28）

総会（元・5・28）

支部長会（元・6・25）

理事会（6回）

常任理事会（8回）

総務部会（4回）

財務部会（5回）

広報部会（6回）

企画部会（6回）

事業部会（1回）

組織部会（5回）

監査会（1回）

この他、創立90周年記念行事実行委員会等、各種委員会が多数開催された。

財務部

平成元年度校友会財務関連情勢は、前年度の経済変動の経験から、緊縮ムードのなかで極めて平温に終止し、期待通りの収支状況であった。額面上では順調であったが、緊縮ムードによる校友会活動が制約された面もあり、各部会に御迷惑をかけたこともいえない。この点、地方部会活動にもやりずらかったこともあったものと考えられる。

改めて関係各位の御援助に厚く感謝の意を表したい。90周年記念行事も期待以上の盛会となり心から関係各位に感謝申し上げなければならない。

これら昨今の財務情勢は、学生数の減少、新大学棟移転などで、必ずしも将来安定したものとはいえず、今後ともまた緊縮ムードは続くものと考えられ、関係各位のよ

り一層の御援助と御協力をお願いしなければならない。

平成2年度予算も、大変な無理を各部会にお願いし、どうか黒字予算を計上することができたが、より一層校友会活動に支障をきたさないよう、また支部活動をより活性化させるため今後漸次改善の必要性を実感として受けとめている。そのため校友会費の改定や卒業後数年後の会費制の制度改正といったことが今後検討されねばならないと考えている。

本年度は全国大会が静岡市で開催され、多くの校友が結集した会になるものと期待している。

その際に校友の諸氏に御批判・御提言など寄せられるよう希っている。

企画部

昭和63年にはPRスライド、「校友会の歩み」を完成し、会員の皆様に校友会の現状を見て頂きました。昨年度は「工学院大学校友会創立90周年記念行事」を企画し、実行委員会のもとで無事終了することが出来ました事は、校友会の歴史と、学園への支援組織として重要な役割を果たしていることを学内外に認識して頂く機会として大変有意義であったと思います。今年度は、校友会の親睦団体として、校友会自身を、ひいては学園をサポートする

「(仮称)工学院大学学園校友会クラブ」の組織作りに入る様企画の予定です。私達は実社会の活動の中で多くの同窓生とめぐり合い、交流しあっています。この組織体が会員相互の実務上の情報交換の場としても機能して頂ければと思っております。新大学棟の竣工を契機に校友の皆様が結束がますます固くなります様に願うと同時に、校友会の発展につながれば幸いですと思っています。

90周年記念式典功労表彰者

○校友会元役員関係

月原 貢	足立 剛一	岩城福三郎	都築 武一
鈴木昇太郎	只野 文哉	北野 均	北村 菊男
浅田鎌太郎	角田 孝助	関口 城吉	落合 康男
松本 与作	相沢 包吉	三木 珍治	喜多村久雄
坂口 義雄	鈴木 啓之	伊藤 真治	加藤喜太郎
穂本 素行	山下 与作	松島 一郎	堀内 通利
正木 健三	三田村照治郎	関 善司	

以上 27名

○支部長経験者及び現支部長関係

今野 正治	諸沢 忠男	細谷 繁雄	小倉 武
鈴木綱五郎	鈴木 正雄	古屋 留三	鈴木金次郎
片岡好之助	杜 瑞 昌	松井 正長	風間 治作
金子 貞治	関野 輝次	小出 虎男	牧野 一
阿部 重信	植村 広	上田 啓二	強力 辰夫
平田 毅	外山 義一	川崎 太一	石黒 松雄
岩永 充三	山本 正朔	長岡喜美男	菊地 忠雄
後藤 正春	阿久津 利	中島 治男	新関 安生
相良 栄一	谷口 弘明	佐藤 正吾	千代田節雄
加登数太郎	久保 政三	吉田 義雄	猪俣 重義
篠原 梅吉	小林 成一	樋口 利一	会田惣太郎
渡辺 一男	小野塚政雄	八木平八郎	鈴木 光夫

南雲 芳夫	萩野 栄吉	小笠原松雄	菊地 誠
高橋 栄次	太田 定吉	金田 昭治	富所 良二
清水 利治	隅元 武彦	谷口 宏	山本 修
西沢 集	千田 誠一	市川 光雄	金子 貞治
松原 浩一	山崎 弘資	鈴木 省吾	出口 元夫
石川 太一	庭野 七郎	岡本 耕一	高木 清英
尾崎 明雄	白河 昭三	安原 耕平	舛井 寛一
重村 伝平	和田 正隆	大西 要	曾我 峯男
三輪伸太郎	麻生 好彦	石井 寿紀	江口 健
吉永 邦雄	橋崎 政男	門田見和紀	高江州 隆
周 詩 傑	中島 一	山中 芳朗	江袋 林蔵

以上 92名

○単体同窓会長(現・旧)

機械工学同窓会長	長坂瞬二	八木平八郎	山崎隆一
応化会長	間宮富士雄	富所良二	間宮真佐人
電気同窓会長	根岸照雄	内山 太	関戸 皎
建築学科同窓会長	小高鎮夫	金山昭二	金尾武彦
	南迫哲也		
専門学校同窓会長	森山健次	南雲芳夫	
高等学校同窓会長	足立剛一		

以上 16名

●事務局だより

校友会の皆様ご健勝にてそれぞれの職域でご活躍のことと推察申し上げます。

さて、昨夏、既に周知の通り新大学棟が完成し、さらに着々と二期工事が、進行していることは、全工学院大学学園卒業生としてご同慶の至りに存じます。

なお、このエポックに花を添えて昨秋、私共の校友会創立90周年記念行事を多彩に催した処、『校友の』『校友による』『校友のための』開かれたよりよいムードでピリオドを打て前途洋々たる校友会の機運が醸成しつつあります。

校友会事務局も、過渡期的なスペースでありますが新大学棟28Fの一隅を占め、いずれ二期工事完成の暁には、「校友クラブ(仮称)」へのアプローチの位置づけとして、大いに期待される処であります。

このような背景の下に、校友諸兄姉におかれては、新宿周辺に足を運ばれた折には、気軽に、校友会室を訪ねられて近況などお話し、自分の登録されている情報と共に友人の新しい情報をご提供頂ければ幸いです。

もし、校友の皆様におかれましては、遠近にかかわらず、友人または企業の方々との待合せの場所は、遠慮無く校友会室を高度にご活用ください!

平成2年度予算にて校友会室にテレビ・ビデオなどの什器を設置致す予定であり、そこで学園近況・学園紹介・校友会支部活動紹介および校友会90周年記念ビデオなど

校友カード制度発足を考えています

校友会では、クレジットカードサービス社数社と提携して、卒業生を対象に、「校友カード」を発行し、カードの機能と特典に工学院大学校友会独自のサービスを附加した価値あるカード制度を考えております。

例えば、このカードをお持ちになれば、校友クラブの割引利用ができるなど。

この制度発足の折には是非卒業生(校友)の加入をお願い致します。

校友会事務局

をご笑覧の上、待合せ願えれば幸であります。なお、コーヒー・紅茶など低廉価(¥30.位)でご利用できるように、配慮致しております故、どうぞお越してください!

実務サービスとしては、同期のクラス会を開催したい時、開催場所(主として28F会議室)の斡旋とか、クラス代表で案内状を作成する場合、クラス同期名簿原稿または、該当同期生住所ラベルの出力サービス(各単体同窓会卒業生情報管理責任者への窓口)も致しております。

今般、事務局員の有力なメンバーとして、平成2年2月1日付で美人の野田瑛子女史が加わりました。従来メンバー共々よろしく願います。

総務部および事務局揃いで温く校友の皆様をお迎え致しますヨ (文責:池田和夫総務部長)

■賛助会費納入のお願い

校友会 会長 丹羽 宏之

本会員の皆様には、校友会事業活動に対し常々ご協力ご援助を賜わり厚く御礼申し上げます。

校友会の活動充実の為の運用資金援助として皆様より賛助会費納入をお願いしておりますが、なお一層のご協力を頂きたく振込用紙を同封いたしましたのでよろしくお願い申し上げます。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせて頂きます。

弔 報

小崎 信邦	士大6卒 建大10卒	元年6月	逝去
伊藤 七蔵	建昭12卒	元年1月29日	逝去
浜野 善市	機械大5卒		逝去
棕野 義実	建築昭13卒	元年3月10日	逝去
武井千万人	機械大5卒	昭59年1月23日	逝去
岩城福三郎	機械大7卒	2年2月27日	逝去
松本 与作	建築明40卒	2年3月9日	逝去
都築 武一	機械大9卒	2年3月24日	逝去

社団法人 工学院大学校友会
第45回評議員会 第34回総会 開催のお知らせ

会長 丹羽 宏之

日時 平成2年5月27日(日) 13時～16時
 場所 工学院大学講堂(新棟3階)
 議案 (資料参照)
 第1号 平成元年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
 第2号 平成元年度財産目録承認の件
 ◎監査報告

第3号 平成2年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

(注1) 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答下さい。
 (注2) 施行細則第10条により、当該議事について意志表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

記念講演 「21世紀へ向けての 学園再開発と校友会の役割」
 学校法人工学院大学 松浦隼雄先生
 開発本部長・建設担当常務理事

懇親会 (講演終了後於28階)
 理事長・学長を始め学校側の多数のご来賓をお招きしてあります。

平成元年度事業報告書

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学園将来計画に協力
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助 優秀な学生には各学校毎に表彰
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会々報の発行 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会や見学会を開催 2. 創立90周年記念講演
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 支部の支援、支部組織の活性化を図る 2. 将来校友会館を建設するための具体的計画を促進し実行するよう努力 3. 創立90周年記念式典終了後懇親会開催 4. 顧問、相談役懇談会を開催
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等
その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	1. 学校法人工学院大学創立百周年記念募金に協力 2. 校友会創立90周年記念行事を行う

◆表彰

平成元年5月第33回総会において表彰

1. 表彰状贈呈

本部役員関係

氏名	功績
足立 剛一	表彰規程第3条第1号
岡田 幸吉	〃 第3号
千葉 幸一	〃 第3号

支部長関係

氏名	功績
浜野 善市	表彰規程第3条第3号
阿部 重信	〃
植村 広広	〃
椋野 義美	〃
上田 啓二	〃
強力 辰夫	〃
伊藤 七蔵	〃
平田 毅毅	〃
新庭 安生	〃
庭野 七郎	〃
干田 誠一	〃
出井 元寛	〃
萩原 弘雄	〃
石黒 松雄	〃
周詩 傑	〃

職員関係

氏名	功績
坂井 愛子	表彰規程第3条第2号

(順不同)

2. 感謝状贈呈

氏名	功績
八木 平八郎	表彰規程第4条第4号
山本 修	〃 第3号

(順不同)

◆褒章

平成元年春勲四等瑞宝章の栄誉を受けられました。

静岡県副支部長 外山 義一 氏 (造船102回卒)

3. 学生・生徒の表彰状贈呈

種別	学科学年	氏名
大学院	機械工学専攻修士課程2年	竹田 治正
	工業化学専攻博士後期課程2年	阿部 克也
	電気工学専攻修士課程2年	坂口 武
	建築学専攻修士課程2年	中村 政人
大	機械工学科2年	柴田 稔
	〃	鈴木 良樹
	〃	田中 淳弥
	工業化学科2年	内田 浩樹
	化学工学科2年	高田 猛彦
	〃	新田 誠司
学	電気工学科2年	清田 純
	電子工学科電子工学コース4年	浅井 和枝
	〃 情報工学コース4年	小谷野 健治
	建築学科2年	船渡川 長利
専門学校	〃	五十嵐 賢治
	〃	兼久 和恵
	機械科2年	大久保 満成
高	建築科2年	新井 稜
	電子情報科2年	佐藤 真弓
	〃	仲家 浩三
校	機械科3年	佐渡 勝輝
	普通科2年	細貝 強
	建築科2年	中丸 哲也

収支計算書

平成元年4月1日より平成2年3月31日まで

(単位：円)

Table of income and expense statements for the period from April 1, Heisei 0 (1989) to March 31, Heisei 2 (1990). It shows a detailed breakdown of income (I) and expenses (II) with budgeted, actual, and variance amounts.

(注) △は収入の部は減、支出の部は超過を示す。

(注1) 予備費内訳 旧校舎お別れ会500,000 新大学棟竣工披露500,000 両国校舎100,000 出張費206,680

貸借対照表

平成2年3月31日現在

(単位：円)

Balance Sheet as of March 31, Heisei 2 (1990). It compares assets (流動資産, 固定資産) and liabilities/equity (流動負債, 固定負債, 正味財産).

平成2年度事業計画(案)

Proposed business plan for Heisei 2. It lists activities such as school facility improvement, student support, and various fees, along with their respective objectives.

平成2年度収支予算書(案)

平成2年4月1日から平成3年3月31日まで

(単位千円 △印は前年度より減を示す)

Proposed income and expense budget for Heisei 2. It provides a detailed budget for income and expenses for the period from April 1, Heisei 2 (1990) to March 31, Heisei 3 (1991).



平成元年8月に完成した総合工学研究棟



総合工学研究棟裏側より望む

この建物は、創立百周年記念事業の一つとして建てられた総合工学研究棟で、総工費5億円。